

## 身近なところに地域遺産が…「場所の展示と美の増幅」

株式会社ケービーケー久保田 代表取締役 久保田 要

甲州人の気質に前向きでバネのある志向性がある。反面、日常では過去を教書として観られないもどかしさもある。遠くを見ずえることに待ちきれないのであろうか。そして文化不毛の地とご当地の文化人達はいう。また明日が心配の方々が勢い文化の旗を振る。地域の顔となる素晴らしい施設の中に恥ずかしくもなくただ陳列されているモノ。人間の美しい暮らしを美意識(芸術)としてみて取れていないがゆえに感動を覚えない。つまり展示ではないのである。先人たちの生きた土台の上に今日のわれわれがある。そこに生きた場所の履歴を調べて見ると、結構おもしろいものが多々見つかるのである。

因みにここ数年来保存修復・調査をしてきた建築をご紹介します。国指定の登録有形文化財「村松家住宅」である。『ニンベングチ』の屋号を持つ商家蔵、主屋、文庫蔵、厠からなり、駿信往還沿い桃園地内にある。国道52号線拡幅事業のための挽き家、移転の協力と、文化庁の保存修復事業により遺すことが可能となった。そこに暮した人々の遺された資料、年表や建築の保存修復を通して見えるものの中に、時代を乗り越えた生き様を垣間見ることができる。圧巻は『清吟書屋』を雅号し、ツガイの瑠璃烏をモチーフにした釘隠しやラピス(紺碧)壁を施した静寂の間など、数寄者の空間構成である。

ひとつの住宅だが中身は濃い。江戸中期～幕末、維新、明治、大正、昭和と、近世～現代を結ぶ貴重な時間と空間が詰め込まれていた。きっかけは、山梨の近代を創った県令藤村紫朗以前、山岡鉄舟の命にて山梨に派遣されて来た副県令富岡敬明の偉業と保存修復(甲府善光寺の富岡敬明

家住宅保存修復)のドキュメント放映(NHK甲府TV)をご覧になられてのことであった。同時期を生きた建築の共通事項としてヒト(山岡鉄舟)の関係から拡がりを得たのであった。ご子孫の建物への強い思いより、建築史とそこに暮した先祖の自分史とがシンクロ(共鳴)した空間を“村松家の生脈”としてまとめることが出来た。腰を据え、フィジカルな調査を通して定点観測してみると、何をしていたのかが見えてくる。併せて歴史的背景を重ねていくと、ここに暮した人々の先見性や挑戦、失敗、挫折、天変地異、復興、その生き方の歴史が美の増幅となり、現在の子孫たちに受け継がれている空間のDNAとして紐どかれてくる。特に構成する素材からは、土や木の文明の中で培われた暮らしが建築構法やデザインとして地域の普遍性を見ることができる。

次世代につなぐ美意識は、われわれの日常すぐ傍にある。埋もれた輝きを磨きだすときである、焦らず中身を充実し、美のトラストを政策提言したい。ブロードウェイの劇場は、創造的な生き様を遺す為、開発せず容積交換により原資を得て文化を護るという成長管理政策を取っている。足元からの地域経営は納税者の納税意欲が美意識に変わることから!